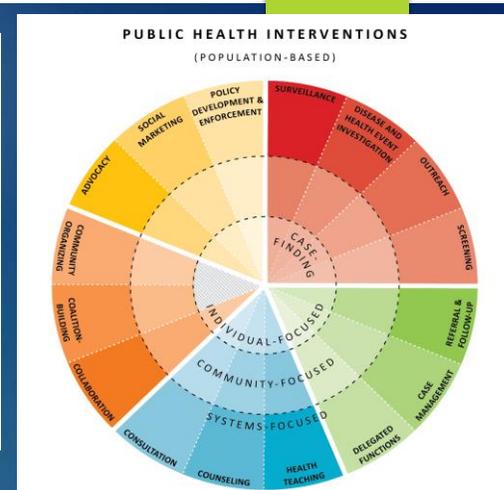


# ミネソタホイールで 保健師活動グッと理解！

2022.2.19 すきっと保健師・ワザケン合同企画



## パブリック・ヘルス・インターベンション ホイールの20年。実践のエビデンス

マージョリーA.シャプアー博士、PHN、RN

ベテル大学看護学部名誉教授

6TH INTERNATIONAL CONFERENCE OF GLOBAL NETWORK OF PUBLIC  
HEALTH NURSING-JANUARY 2022.1.8.



解説：岡本 玲子 (大阪大学・医・保・公衆衛生看護学教室)

# 共同著者・謝辞

## ▶ 共同著者

- ▶ スーザン・ストローシャイン, DNP, PHN, RN, PHCNS-BC
- ▶ カリ・グラヴィン, PhD, PHN, RN

## ▶ ミネソタ州保健局

- ▶ ジュリア・アシュリー, MA, PHN
- ▶ クリスティン・エリクソン, MSN, RN, APHN-BC
- ▶ アリー・ホーリー・マーチ, MPH

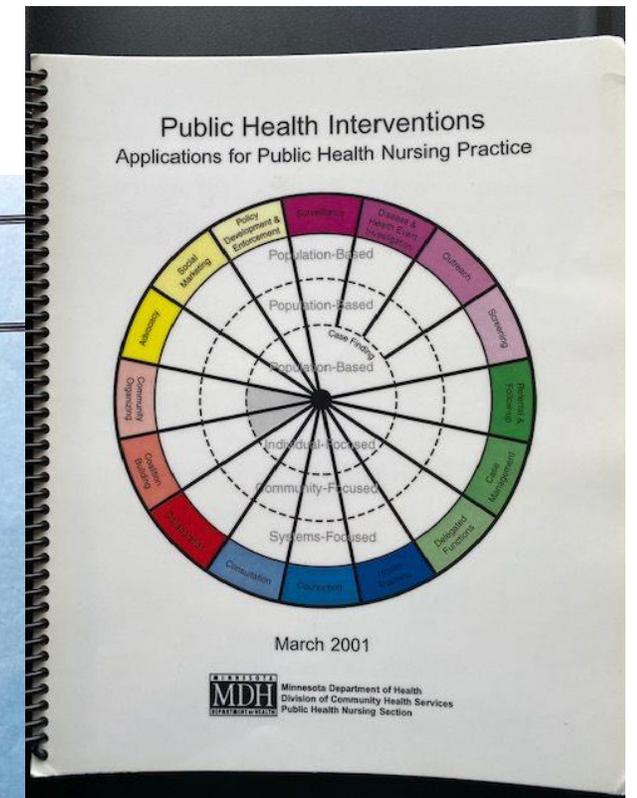
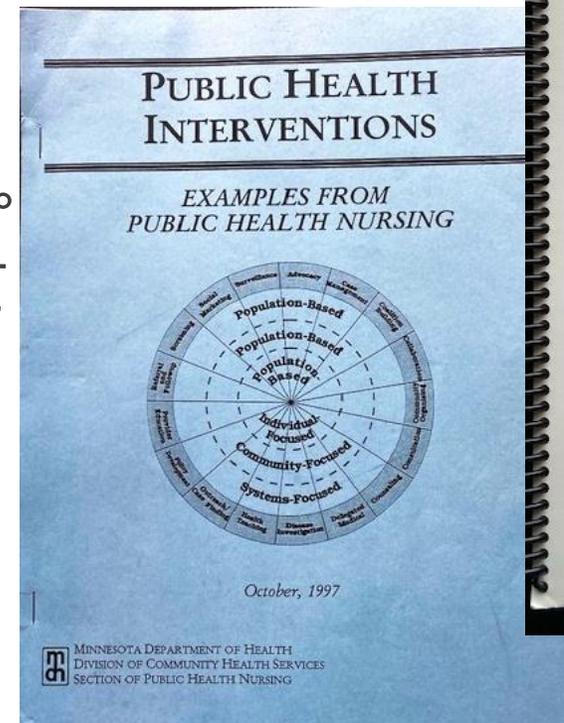


# パブリック・ヘルス・インターベンション ホイールのハイライト

- ▶ 1990年代後半、ミネソタ州保健局の保健師  
コンサルタントによって開発。
- ▶ リンダ・オルソン・ケラーとスーザン  
ストローシャインが率いるプロジェクト。
- ▶ 2000年代初頭、保健師と教育者によって  
採用された

日本語的には「活動」

**介入**とは、健康状態を改善または保護するために、  
コミュニティ、システム、個人、家族に代わって  
行われる行動のことです。

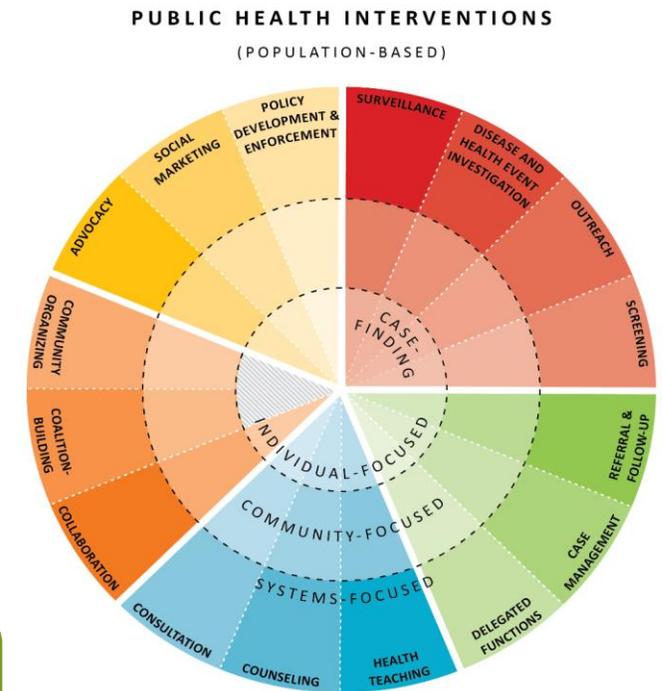


# パブリック・ヘルス・インターベンション・ホイール:実践のための枠組み

実践に基づき保健師の専門的活動として示されている点が特徴

- ▶ 保健師の仕事を解説
- ▶ 実践に基づく、エビデンスに裏付けられたもの
- ▶ すべての介入は**ポピュレーションベース**
- ▶ **3つの実践レベル**でその変化をめざす  
システム、コミュニティ、個人/家族
- ▶ **17の介入**

日本の行政保健師の場合は  
厚生労働省「保健師活動指針」や事務分掌で特定



# 枠組みの前提条件



- ▶ ポピュレーション全体に焦点を当てる
- ▶ 介入策は地域健康アセスメント(地域診断)に基づく
- ▶ 健康の社会的決定要因について包括的に考慮する
- ▶ ヘルスプロモーションと予防に重点を置く
- ▶ 複数のレベルで介入する



健康の社会的決定要因

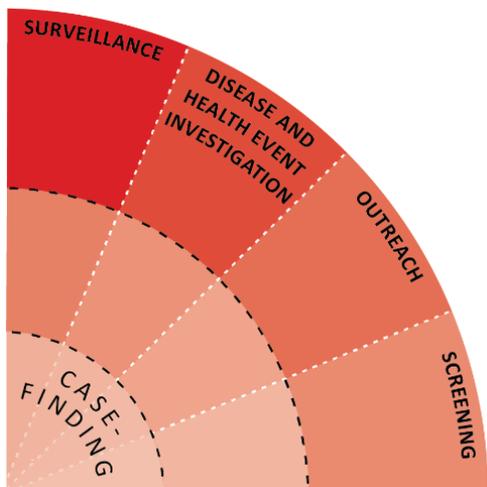


## 3つのレベルの実践

- ▶ **システムレベル:**  
組織、政策、法律、権力構造を変える
- ▶ **コミュニティレベル:**  
コミュニティの規範、態度、意識、習慣、行動を変える
- ▶ **個人/家族レベル:**  
個人や家族の知識、態度、信念、習慣、行動を変える

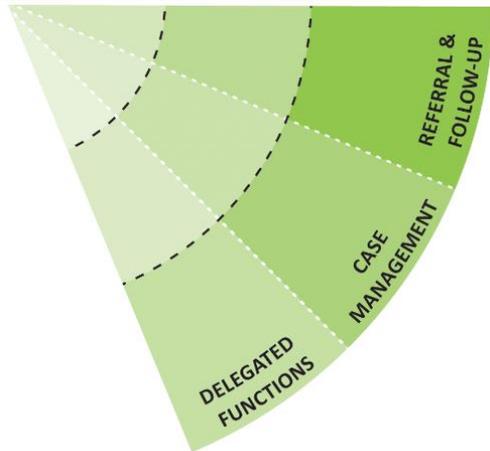


# 5色の分類枠



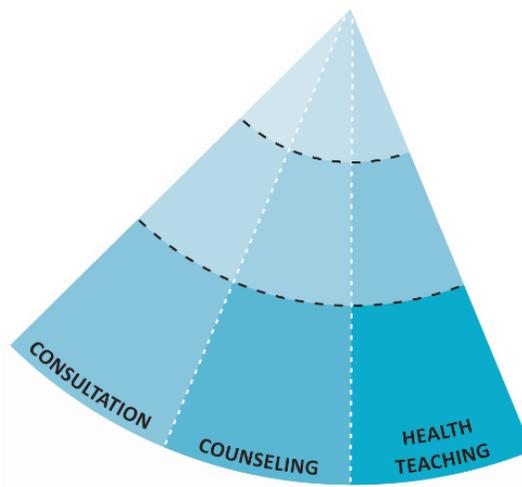
- サーベイランス
- 疾病・健康調査
- アウトリーチ
- スクリーニング
- ケース発見

みる・見出す



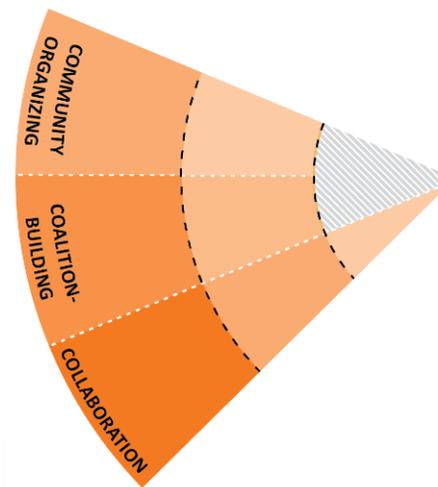
- 紹介とフォローアップ
- ケースマネジメント
- 受託業務/委任機能

つなぐ・きく・対応する

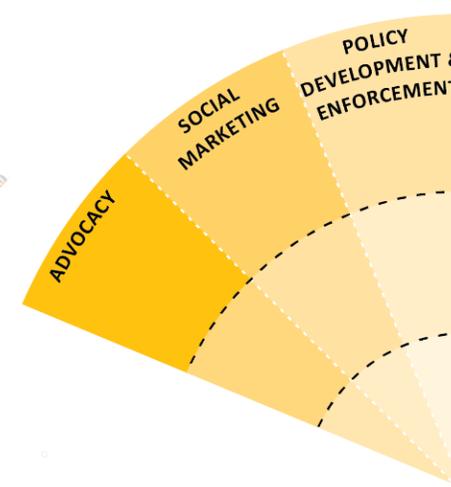


- 健康教育/保健指導
- カウンセリング
- コンサルテーション

つなぐ・うごかす・創る



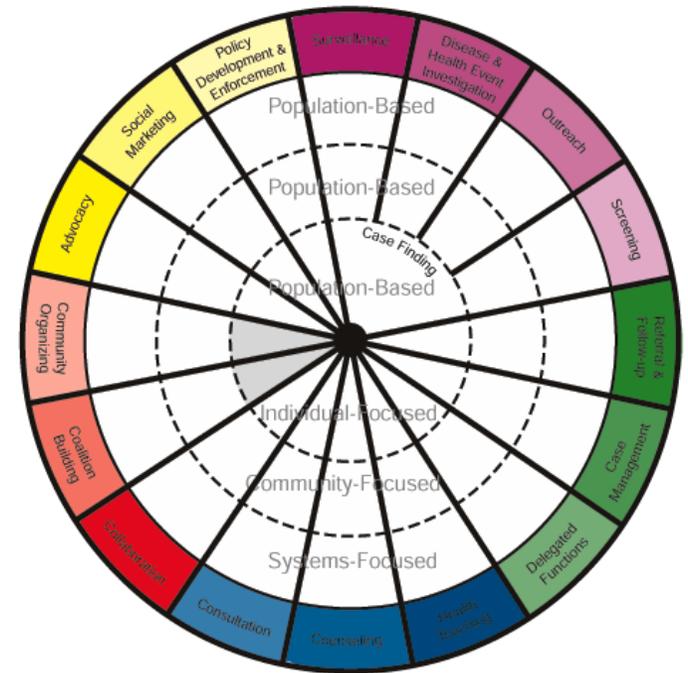
- 協働
- 連携構築
- 地区組織化



- アドボカシー
- ソーシャル・マーケティング
- 施策化と施行

# エビデンスの更新が必要

- ▶ 2001年に第1版発行
- ▶ 政策変革と医療改革が実践の変容に貢献
- ▶ 新しいエビデンスの急速な拡大とEBPの重視
- ▶ MDHによるエビデンスの更新



第1版、2001年



# マニュアル： 公衆衛生看護実践への適用

- ▶ 定義
- ▶ 全ての実践レベルでの例
- ▶ 他の介入策との関係
- ▶ 適用例による介入の基本ステップ
- ▶ エビデンスに基づく実践ステップ
- ▶ エビデンスからのキーポイント
- ▶ ホイールノート

ミネソタ州保健局(2019年)公衆衛生の介入：公衆衛生看護実践への適用（第2版）

<https://www.health.state.mn.us/communities/practice/research/phncouncil/wheel.html>

# PHIの適用

すべて  
【ポピュレーションベースの  
公衆衛生介入】

ホイールの内側  
【3つの公衆衛生実践レベル】

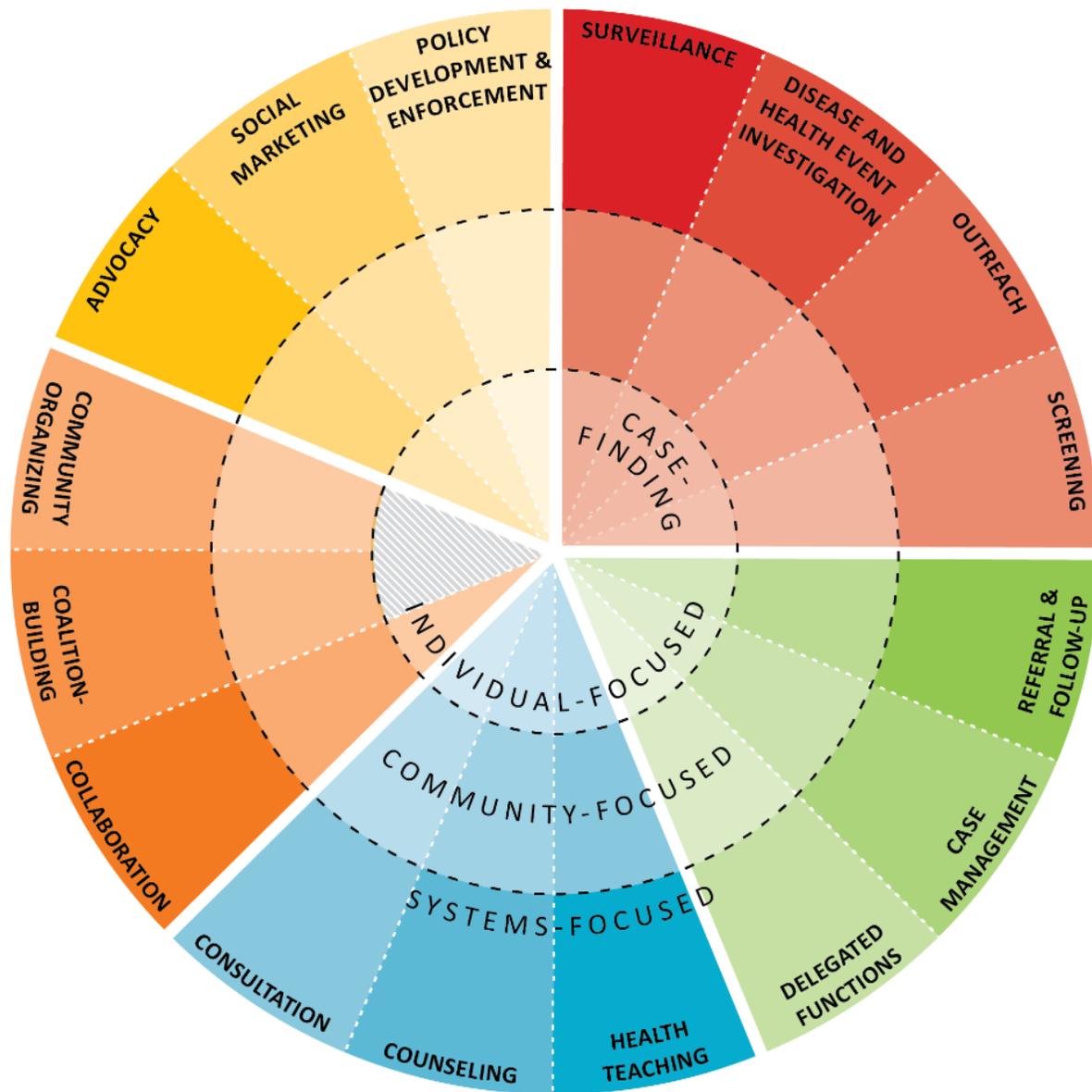
個別フォーカス

地域フォーカス

システムフォーカス

(岡本改変)

## PUBLIC HEALTH INTERVENTIONS (POPULATION-BASED)



ホイールの外側(5つの分類枠)  
【17の公衆衛生介入】

- ・サーベイランス
- ・疾病・健康調査
- ・アウトリーチ
- ・スクリーニング
- ・ケース発見

- ・紹介・フォローアップ
- ・ケースマネジメント
- ・受託業務・委任事務

- ・健康教育
- ・カウンセリング
- ・コンサルテーション

- ・協働
- ・連携構築
- ・地区組織化

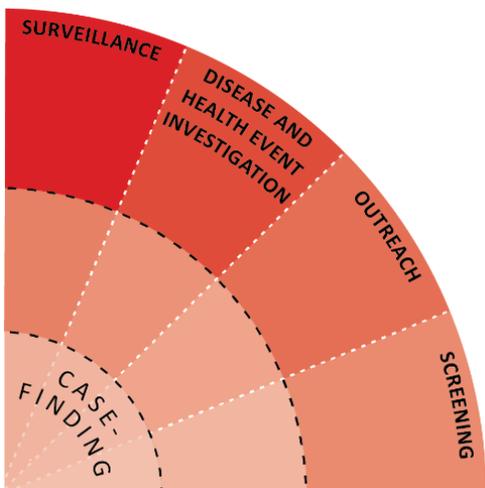
- ・アドボカシー
- ・ソーシャルマーケティング
- ・施策化・施行

# COVID-19パンデミックへのホイール適用



- ▶ COVID-19パンデミックに対する公衆衛生看護活動をホイールで解説！
  - ▶ 17の活動の定義
  - ▶ 活動の実際

# COVID-19パンデミックへの適用：赤枠

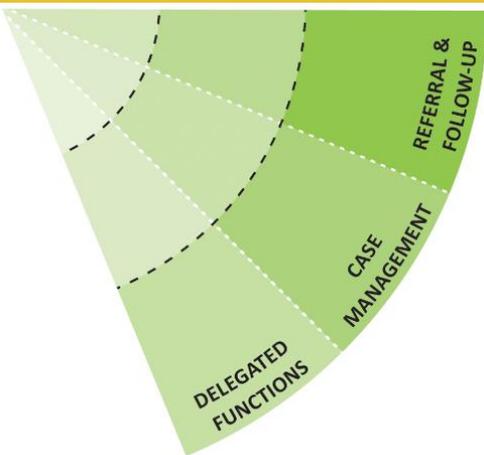


- 保健所を通して集積されるCovid-19新規感染者のデータから発生率の増減を把握（**サーベイランス**）
- 罹患者の性別・年齢・地域・基礎疾患の有無などを**調査**し、重症者とそうでない人の比較から、重症化リスクを特定
- 単身高齢の自宅待機者に自治体からパルスオキシメーターと食料を配布（**アウトリーチ**）

## 定義（要約）

- **サーベイランス**：（感染症など）公衆衛生活動の計画・実施・評価に不可欠な継続的・体系的データ収集・分析
- **疾病・健康調査**：健康事象とその要因に関するデータを調査により収集・分析しエビデンスに基づき施策化へ
- **アウトリーチ**：多数のニーズや、ハイリスク集団を特定し、ニーズに対応する地域への出張サービス
- **スクリーニング**：リスク認識がない or 無症状の集団から（問診票や検査で）リスクや病気のある人を特定
- **ケース発見**：リスク要因を持つ個人や家族を探し出し、社会資源につなぐ

# COVID-19パンデミックへの適用：緑枠

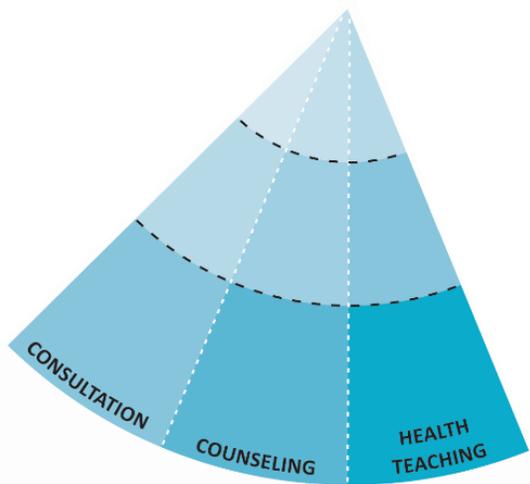


- 保健所に「本日陽性判定された友人と2日前にマスクなしで1時間会食した、現在症状はない」と相談があり、濃厚接触者対応のサービスを**紹介**した。
- 検査の結果陽性が判明、積極的疫学調査の上、自宅か宿泊療養かの選択肢を提示し希望に沿う手配を行った  
**(ケースマネジメント)**

## 定義（要約）

- **紹介とフォローアップ**：個人や集団を社会資源につなぎ、問題の予防や解決に効果があったかその後確認
- **ケースマネージメント**：利用者ニーズを満たす選択肢やサービスを提供。調整やアドボカシーを伴う協働過程
- **受託業務/委任機能**：①専門看護師が法律で定められた医療従事者の権限の下で行う直接ケア業務(ワクチン接種等)  
②専門看護師が他の適切な職員に委託して行う直接ケア業務

# COVID-19パンデミックへの適用：青枠

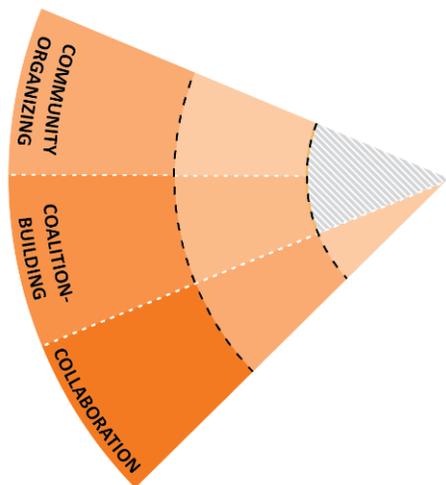


- 地域の学校から感染予防のポイントを教えてほしいと依頼があり教員と全校生徒を対象に**健康教育**を行った。
- 不安の強い児童に対しては個別相談を行った(**カウンセリング**)
- その後、校内を巡視し、検温機器や手指消毒剤の設置場所を養護教諭・教頭と共に検討(**コンサルテーション**)

## 定義（要約）

- **健康教育/保健指導**：健康に関する知識・態度・行動・スキルの向上のための教育により情報や経験を共有する
- **カウンセリング**：セルフケアや対処能力の向上を目的として情緒的なレベルでの対人関係を構築する
- **コンサルテーション**：情報を求め、双方向の対話的な問題解決を通して、認識した問題や課題に対する最適な解決策を導く

# COVID-19パンデミックへの適用：オレンジ枠

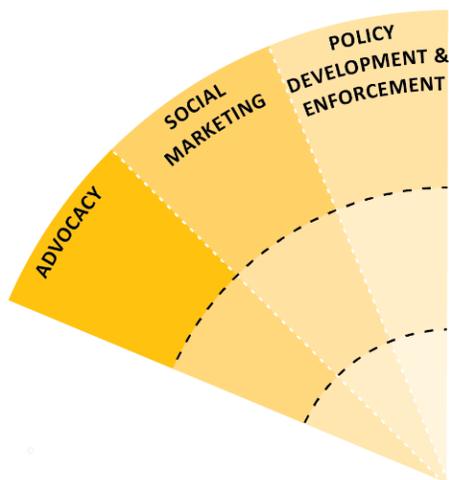


- 自治体のワクチンの大規模接種会場の設置が急がれ、近隣大学と自治会が、必要な要員派遣を行った(**協働**)
- 接種率向上のために地域の各種団体・組織に協力を求め、高齢者への呼びかけ体制を組んでもらった(**連携構築**)。
- 地域によっては婦人会がプロジェクトチームを組んで動いた(**地区組織化**)

## 定義（要約）

- **協働(コラボレーション)**：相互の利益と共通の目的のために健康を促進・保護する能力を高めること。協働には、情報交換・協調的な活動・資源の共有などが含まれる。
- **連携構築**：共通の目的のために、組織や構成員間の同盟関係を促進・発展させる。連携構築、問題解決、健康問題への取り組みのために地域のリーダーシップを強化する
- **地区組織化(コミュニティガバナンス)**：人々が集まって、共通の問題や目標を特定し、資源を動員し、達成したい目的に到達するための戦略を策定し、実行するプロセス

# COVID-19パンデミックへの適用：黄枠



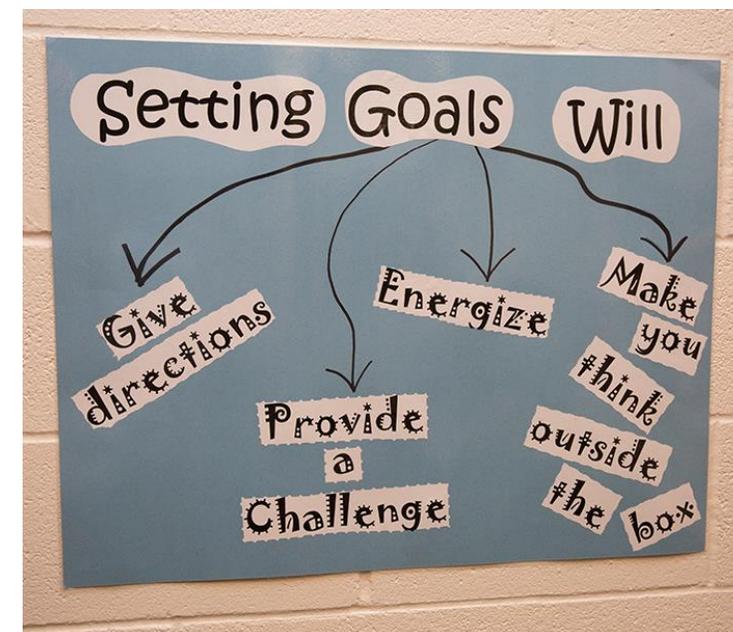
- 陽性者が職場復帰後に差別を受けないように、正しい知識を提供する動画と冊子を作成し配布した(**アドボカシー**)。
- SNSを通じて、コロナ禍での困り事を収集し、健康教育や**施策化**の必要性和優先度を判断した(**ソーシャルマーケティング**)。

## 定義（要約）

- **アドボカシー(権利擁護・代弁)**：個人やコミュニティの健康を促進・保護する行為。地域保健の成果を高める政策の支援・策定に向けて、関連の重要人物と協力して、健康や社会的サービスへのアクセスを促進し、主要な意思決定者を積極的に関与させる
- **ソーシャル・マーケティング**：マーケティングの原則と手法を用いて、対象者の行動を変え、個人だけでなく社会にも利益をもたらすプロセス
- **施策化と施行**：健康問題を意思決定者の議題とし、解決策を立て、必要な資源を決定し、法律、規則、条例、政策に結実するとともに、それを遵守するよう他者に求める。

# PHI枠組みの意義

- ▶ 最新の「PHI枠組み」を保健師の実践と教育に活かす（活動の体系的理解に基づく実践）
- ▶ PHIホイールを使って、意思決定者や関係職種に住民の健康増進に貢献する保健師の存在を伝え、保健師の価値を高める
- ▶ 効果的な公衆衛生看護活動のエビデンスを集積し実践に適用する（PHI枠組みで網羅性を保証）。



# ブレイクアウトセッションの流れ

1. 東京都足立区の「地域の課題への取り組み ～生活習慣病予防を子育て世代から～」を視聴する。
2. 動画に出てきた3場面で、ミネソタホイールの17の活動がどのように展開されているか発見する。
3. ミネソタホイールを使って、保健師の専門性を体系的に理解する意義を考える。



# PHIホイールマニュアル: ダウンロードまたは注文

- ▶ ミネソタ州保健局 (Minnesota Department of Health) (2019年)公衆衛生の介入：公衆衛生看護実践のへ適用 (第2版)  
Online:  
[www.health.state.mn.us/communities/practice/research/phncouncil/wheel.html](http://www.health.state.mn.us/communities/practice/research/phncouncil/wheel.html)
- ▶ ミネソタ州保健局 (Minnesota Department of Health) (2019年)公衆衛生の介入、定義、実践レベル [配布資料] Online:  
[www.health.state.mn.us/communities/practice/research/phncouncil/wheel.html](http://www.health.state.mn.us/communities/practice/research/phncouncil/wheel.html)

# ノルウェー・コラボレーション 参考文献

- ▶ Schaffer, M. A., Strohschein, S., & Glavin, K. (2021). Twenty years with the public health intervention wheel: Evidence for practice. *Public Health Nursing*, 1–7. <https://doi.org/10.1111/phn.12941>
- ▶ Glavin, K., Schaffer, M. A., & Kvarme, L. G. (2019). The public health intervention wheel in Norway. *Public Health Nursing*, 36, 819-828. <https://doi.org/10.1111.phn.12657>
- ▶ Schaffer, M. A., Kalfoss, & M., Glavin, K. (2017). Public health nursing interventions to promote quality of life in older adult populations: A systematic review. *Journal of Nursing Education and Practice*, 7(11), 92-106. doi: 10.5430/jnep.v7n11p92

# ノルウェー・コラボレーション 参考文献

- ▶ Glavin, K., Schaffer, M. A., Halvorsrud, L., & Kvarme, L. G. (2014). A comparison of the cornerstones of public health nursing in Norway and the United States. *Public Health Nursing, 31* (2): 153-66. doi: 10.1111/phn.12082
- ▶ Glavin, K. & Schaffer, M. A. (2013). A comparison of the well child clinic services in Norway and the Nurse Family Partnership programme in the United States. *Journal of Clinical Nursing, 23*, 492-503. doi:10.1111.jocn.12206
- ▶ October 2011 - A comparison of the Cornerstones of Public Health Nursing in Norway and the United States. Kari Glavin and Marjorie Schaffer presented at the American Public Health Association Annual Meeting in Washington DC
- ▶ October 2011 - A Comparison of the Cornerstones of Public Health Nursing in Norway and the United States. Kari Glavin, Liv Halvorsrud, Lisbeth Kvarme, and Marjorie Schaffer presented at the 2nd International Public Health Nursing conference in St. Paul, Minnesota

ご清聴ありがとうございました！



The background of the image is a light-colored wooden surface with horizontal grain. It is decorated with numerous small, delicate white flowers, likely baby's breath, scattered across the top and sides, framing the central text.

# **ミネソタホイールで 保健師活動グッと理解！**

ブレイクアウトセッション

# ブレイクアウトセッションの流れ

1. 東京都足立区の「地域の課題への取り組み ～生活習慣病予防を子育て世代から～」を視聴する。
2. 動画に出てきた3場面で、ミネソタホイールの17の活動がどのように展開されているか発見する。
3. ミネソタホイールを使って、保健師の専門性を体系的に理解する意義を考える。



# 視聴する動画

場面 1 乳幼児健診に来た母親を対象とする生活習慣病予防の取り組みを始めたきっかけ

場面 2 尿糖が陽性だった母親を対象に行われている「ワンコインランチ事業」

場面 3 保健師以外にも健康づくりに携わる「健康づくり推進員」



# 動画URL

- 地域の課題への取り組み ～生活習慣病予防を子育て世代から～ 東  
京都足立区

<https://www.youtube.com/watch?v=uCPyI8ZP2Lc>



# 視聴する動画

**場面 1 乳幼児健診に来た母親を対象とする生活習慣病予防の取り組みを始めたきっかけ**

**場面 2 尿糖が陽性だった母親を対象に行われている「ワンコインランチ事業」**

**場面 3 保健師以外にも健康づくりに携わる「健康づくり推進員」**



# 場面 1 の振り返り

①平成13年度から始まった健康増進計画である、健康あだち21を基に健康づくりに取り組む中で、足立区の糖尿病による死亡は全国の1.4倍と高く、また健診で糖尿病と診断される割合が増加傾向にあることがわかりました。

②成人のみならず、若い時期からの生活習慣病予防を行うために、幅広い年齢層の住民へどうアプローチするか、その方法を探りました。  
その一つが乳幼児健診の受診率の高さに着目し、乳幼児健診で来所した母親を対象とした糖尿病予防の試みを行うことでした。  
母子保健対策を入口に、生活習慣病予防対策ができるのではと考えたわけです。

# PHIの適用

すべて  
【ポピュレーションベースの  
公衆衛生介入】

ホイールの内側  
【3つの公衆衛生実践レベル】

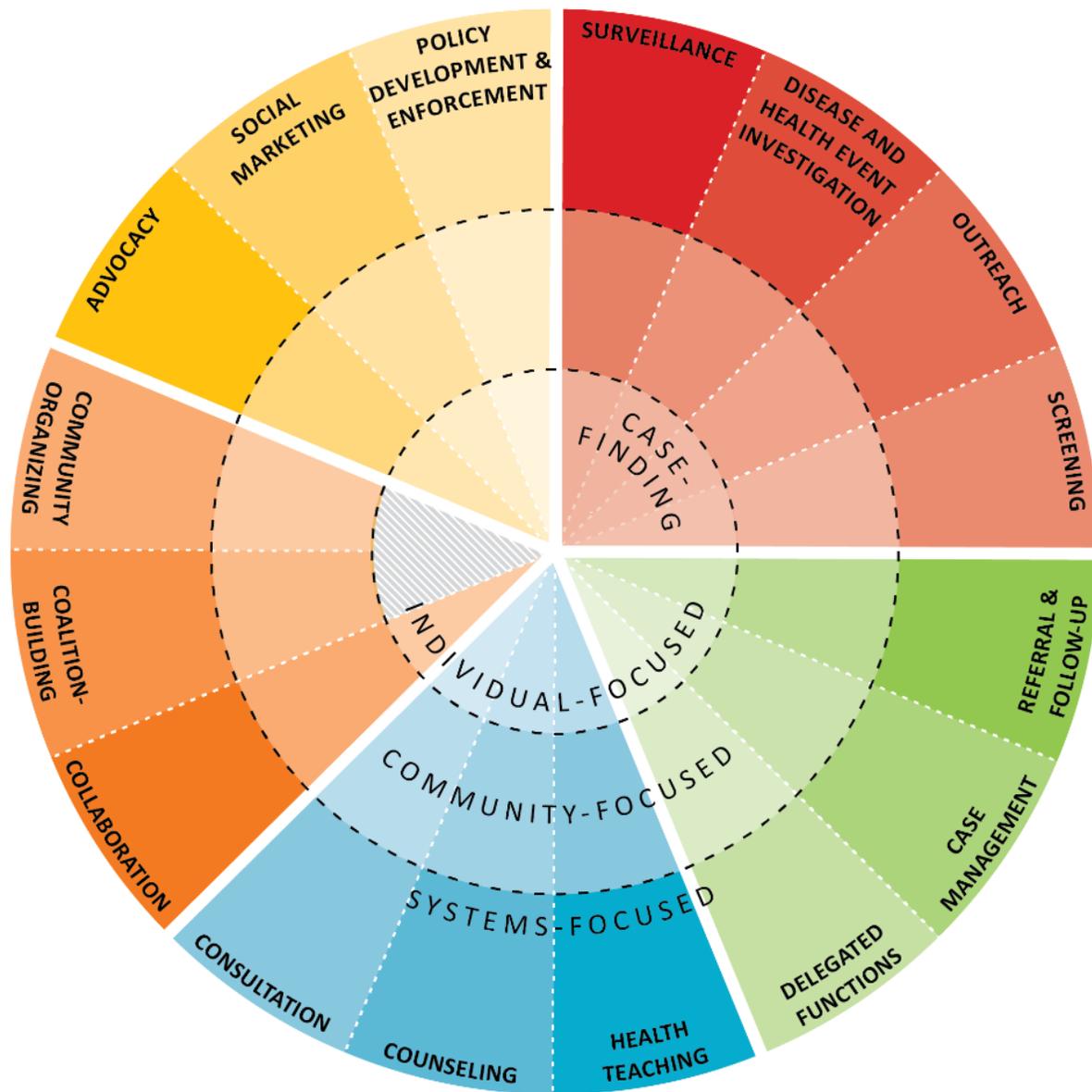
個別フォーカス

地域フォーカス

システムフォーカス

(岡本改変)

## PUBLIC HEALTH INTERVENTIONS (POPULATION-BASED)



## ホイールの外側(5つの分類枠) 【17の公衆衛生介入】

- ・サーベイランス
- ・疾病・健康調査
- ・アウトリーチ
- ・スクリーニング
- ・ケース発見

- ・紹介・フォローアップ
- ・ケースマネジメント
- ・受託業務・委任事務

- ・健康教育
- ・カウンセリング
- ・コンサルテーション

- ・協働
- ・連携構築
- ・地区組織化

- ・アドボカシー
- ・ソーシャルマーケティング
- ・施策化・施行

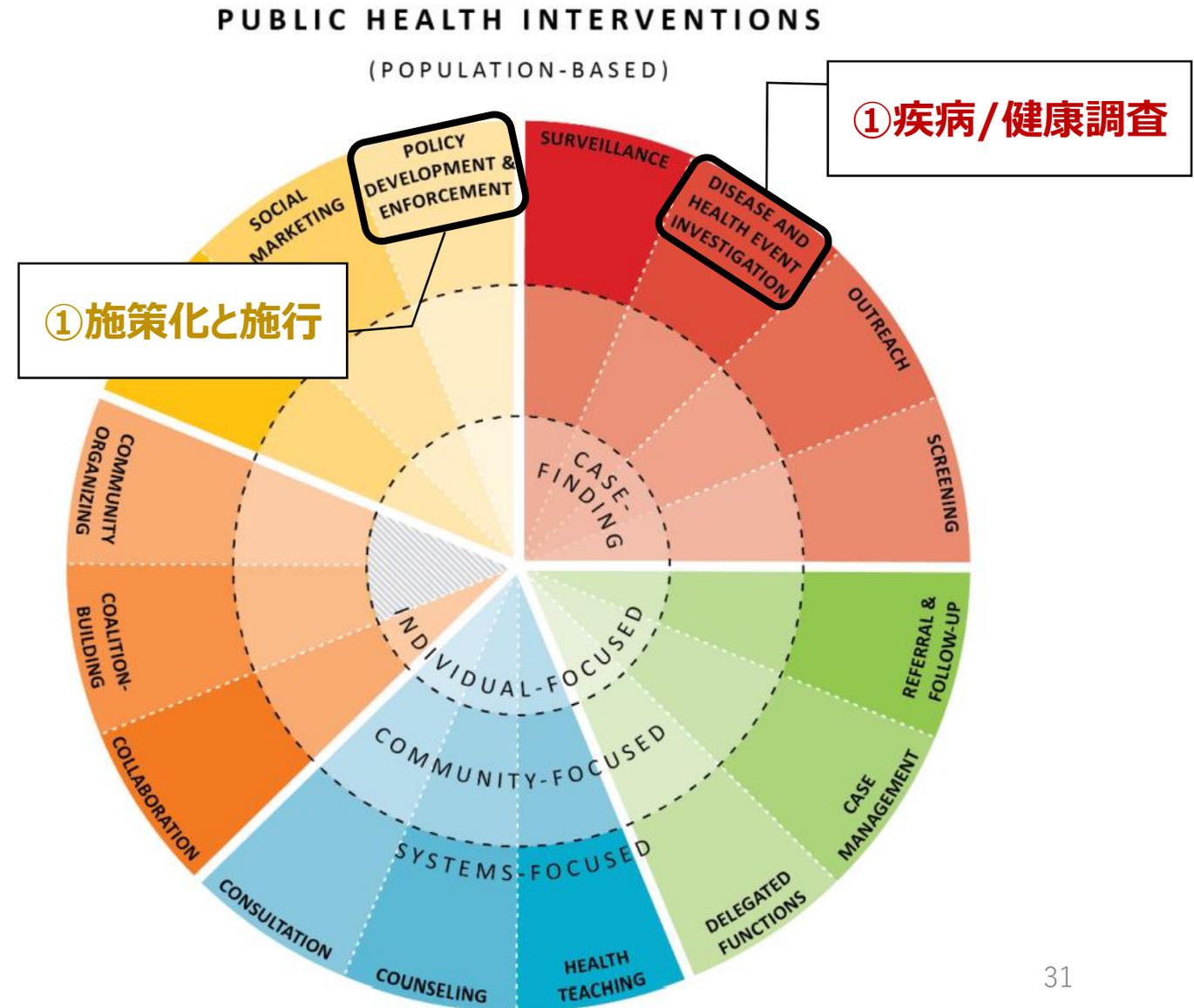
# 場面 1 の振り返り

①平成13年度から始まった健康増進計画である、

健康あだち21を基に健康づくりに取り組む中で、

足立区の糖尿病による死亡は全国の1.4倍と高く、また健診で糖尿病と診断される割合が増加傾向にあることがわかりました。

- 施策化と施行**：健康問題を意思決定者の議題とし、解決策を立て、必要な資源を決定し、法律、規則、条例、政策に結実するとともに、それを遵守するよう他者に求める。
- 疾病・健康調査**：健康事象とその要因に関するデータを調査により収集・分析しエビデンスに基づき施策化へ



# 場面 1 の振り返り

②成人のみならず、若い時期からの生活習慣病予防を行うために、幅広い年齢層の住民へどうアプローチするか、その方法を探りました。

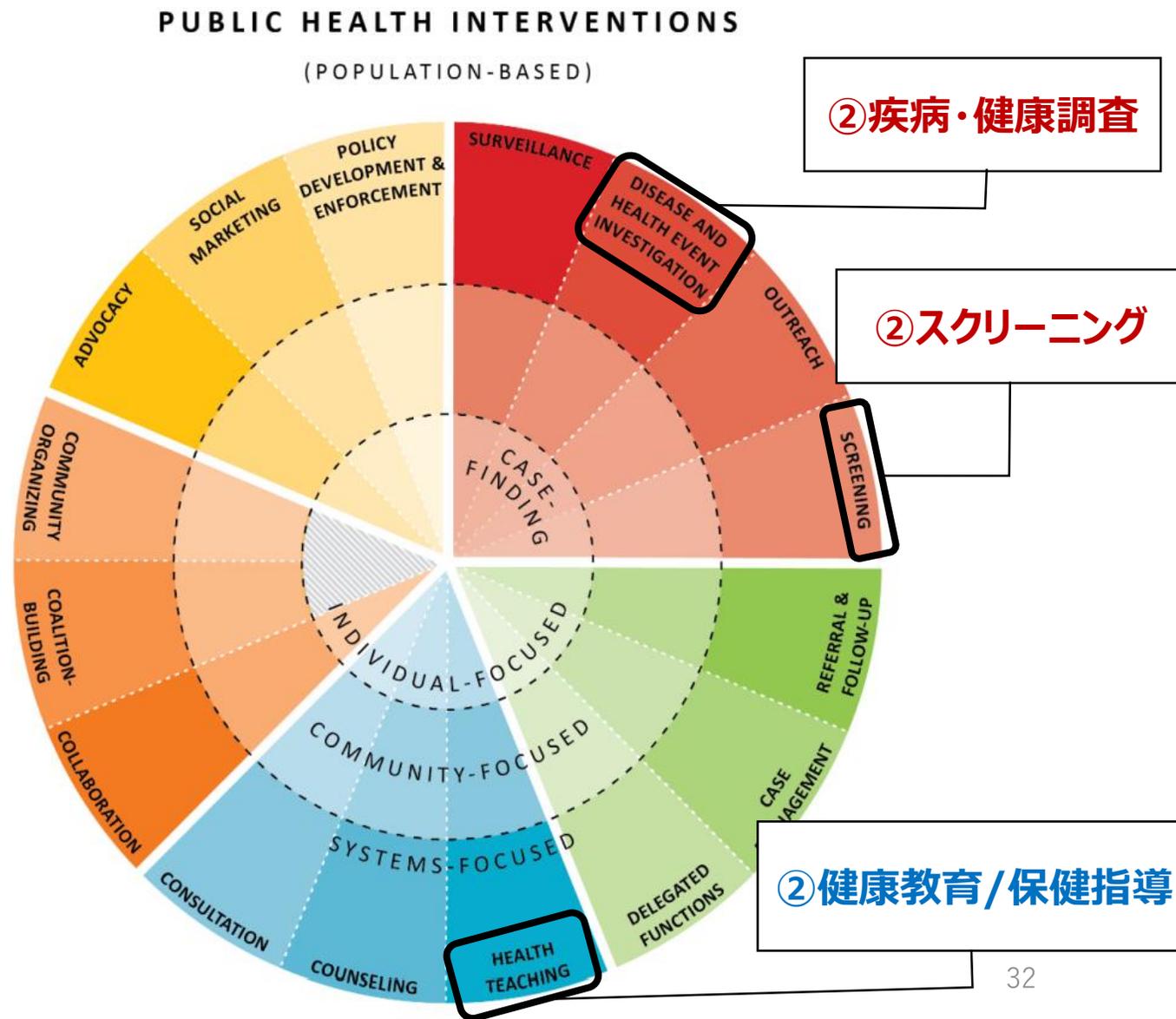
その一つが乳幼児健診の受診率の高さに着目し、乳幼児健診で来所した母親を対象とした糖尿病予防の試みを行うことでした。

母子保健対策を入口に、生活習慣病予防対策ができるのではと考えたわけです。

■**疾病・健康調査**：健康事象とその要因に関するデータを調査により収集・分析しエビデンスに基づき施策化へ

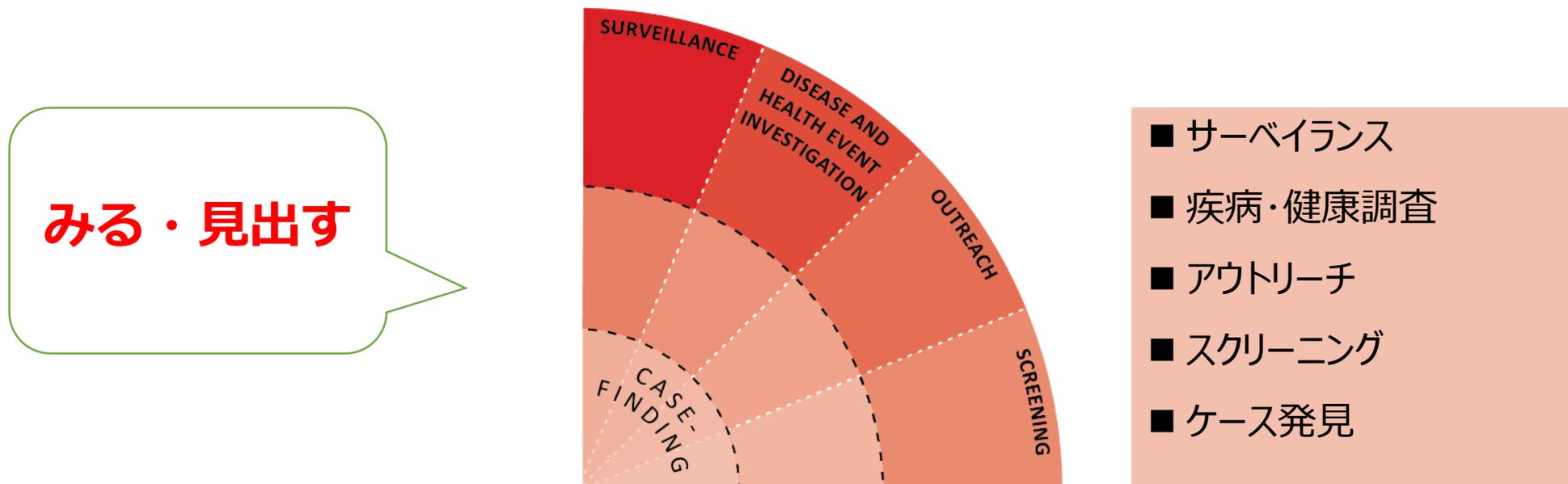
■**スクリーニング**：リスク認識がない or 無症状の集団から（問診票や検査で）リスクや病気のある人を特定

■**健康教育/保健指導**：健康に関する知識・態度・行動・スキルの向上のための教育により情報や経験を共有する



# 場面 1 の振り返り

- 場面 1 では、ミネソタホイール赤枠の「ケース発見」の活動が多く見られた。



→糖尿病（ハイリスク群含む）の母親を見つけ出す

# 視聴する動画

場面 1 乳幼児健診に来た母親を対象とする生活習慣病予防の取り組みを始めたきっかけ

場面 2 尿糖が陽性だった母親を対象に行われている「ワンコインランチ事業」

場面 3 保健師以外にも健康づくりに携わる「健康づくり推進員」



## 場面 2 の振り返り

- ① 尿糖陽性者としてリストアップされた母親に、糖尿病予防の認識を高めてもらうための事業として新たに企画したのが、『ワンコインランチ』です。
- ② 1日目はバランスがとれ、500kcalでつくった500円弁当を食べ、2日目は自分で選んだ食事を持ち寄り、比較することで、日常の食生活に関心を持ってもらいます。
- ③ 「朝から幼稚園で忙しくて、さっき買ったばかりで、ドライブスルーでパッと買って、来ました」「フルーツサンド。まず、あの、果物ってすごく吸収早いし、生クリームあるし」
- ④ そして食前と食後30分、食後60分に血糖値を測定してグラフにします。食材や食前食後によりどれだけ血糖値が変わるか具体的に結果がわかるのがメリットです。
- ⑤ 「（中略）とてもいい機会だったので、やっぱり子どもにも主人にも、作ったものを食べてもらうわけですから、また今度は栄養面でももっと勉強できるような機会があれば来たいなと思います」

# PHIの適用

すべて  
【ポピュレーションベースの  
公衆衛生介入】

ホイールの内側  
【3つの公衆衛生実践レベル】

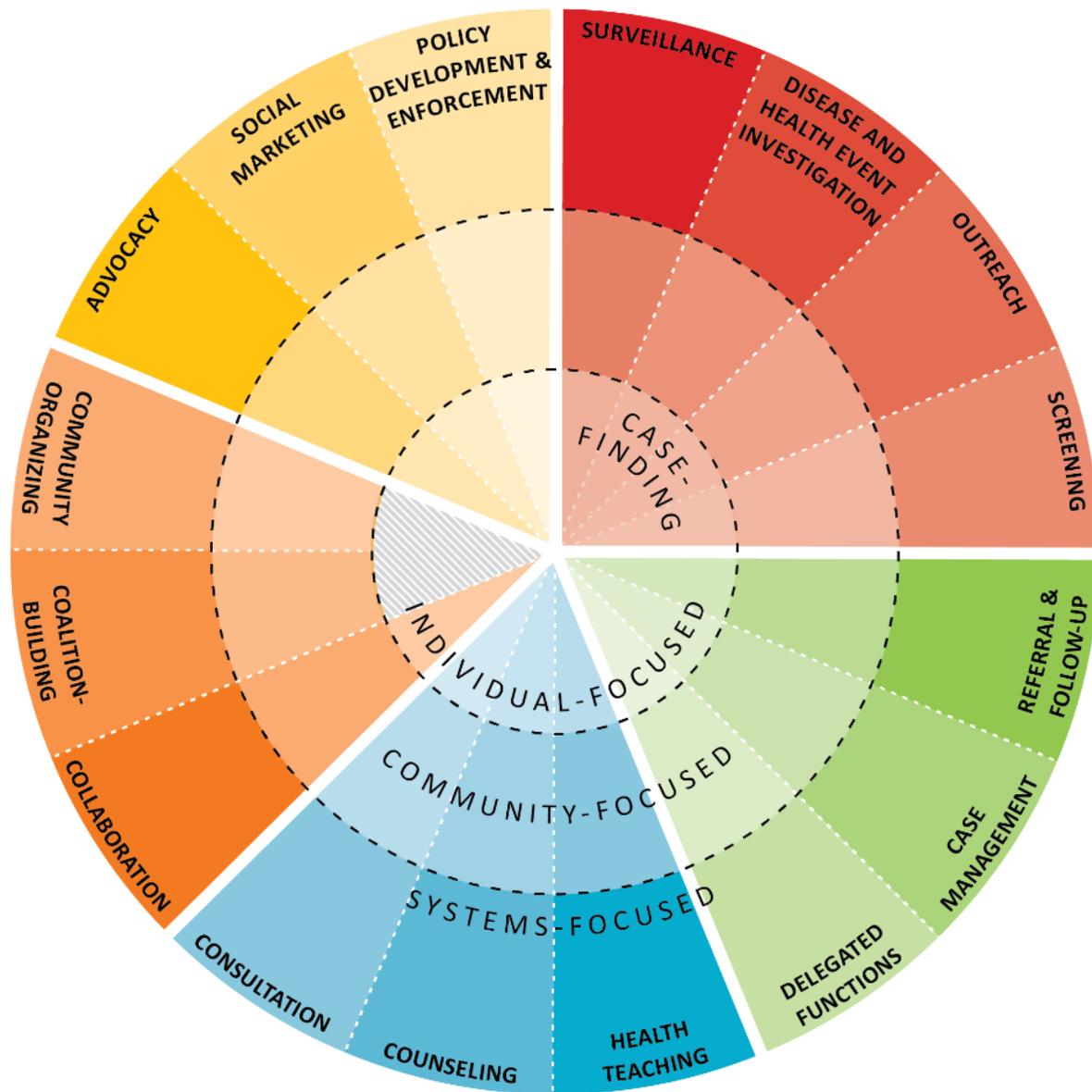
個別フォーカス

地域フォーカス

システムフォーカス

(岡本改変)

## PUBLIC HEALTH INTERVENTIONS (POPULATION-BASED)



## ホイールの外側(5つの分類枠) 【17の公衆衛生介入】

- ・サーベイランス
- ・疾病・健康調査
- ・アウトリーチ
- ・スクリーニング
- ・ケース発見

- ・紹介・フォローアップ
- ・ケースマネジメント
- ・受託業務・委任事務

- ・健康教育
- ・カウンセリング
- ・コンサルテーション

- ・協働
- ・連携構築
- ・地区組織化

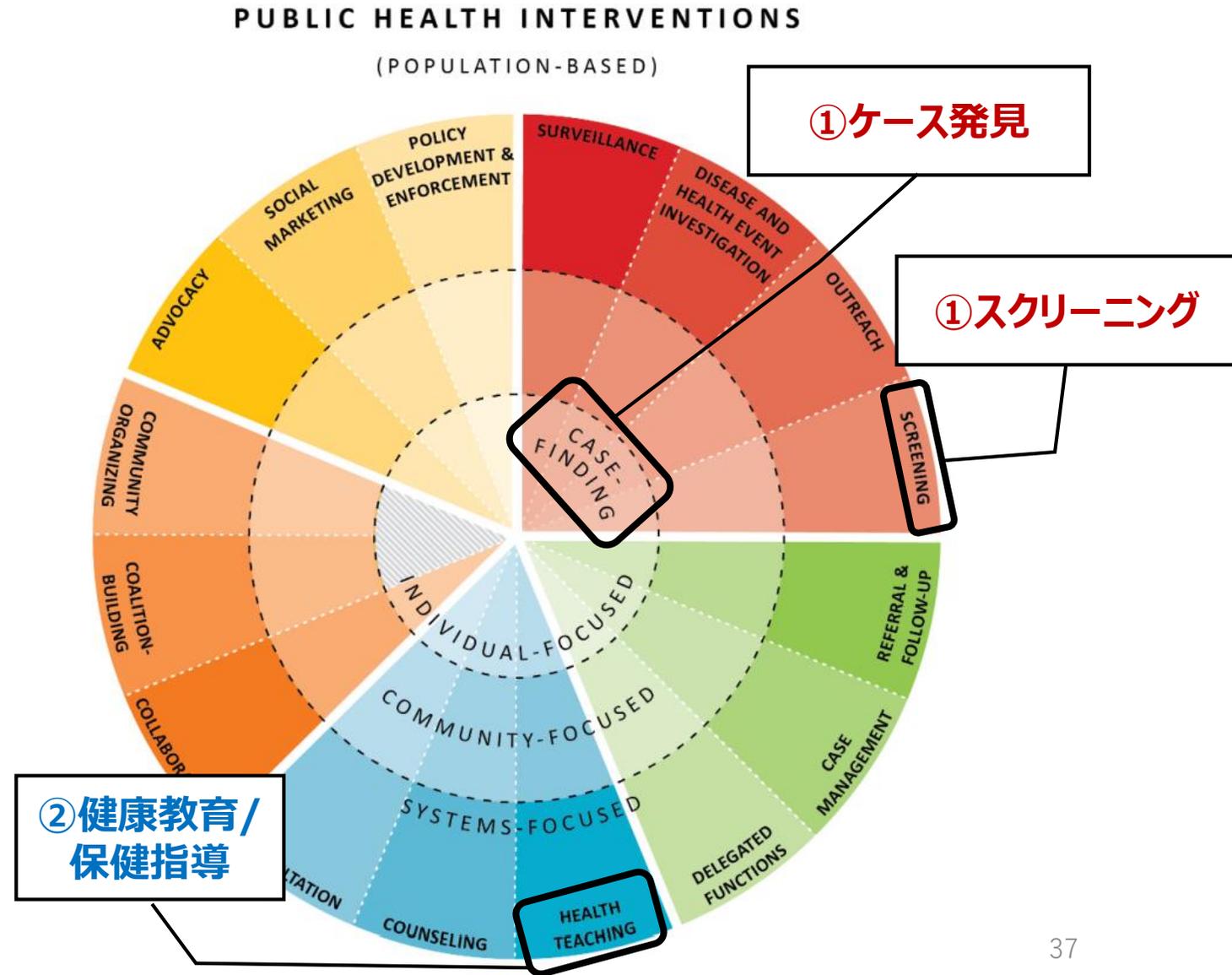
- ・アドボカシー
- ・ソーシャルマーケティング
- ・施策化・施行

# 場面 2 の振り返り

① 尿糖陽性者としてリストアップされた母親に、糖尿病予防の認識を高めてもらうための事業として新たに企画したのが、『ワンコインランチ』です。

② 1日目はバランスがとれ、500kcal で作った500円弁当を食べ、2日目は自分で選んだ食事を持ち寄り、比較することで、日常の食生活に関心を持ってもらいます。

- **ケース発見**：リスク要因を持つ個人や家族を探し出し、社会資源につなぐ
- **スクリーニング**：リスク認識がない or 無症状の集団から（問診票や検査で）リスクや病気のある人を特定
- **健康教育/保健指導**：健康に関する知識・態度・行動・スキルの向上のための教育により情報や経験を共有する



# 場面2の振り返り

③「朝から幼稚園で忙しくて、さっき買ったばかりで、ドライブスルーでパット買って、来ました」

「フルーツサンド。まず、あの、果物ってすごく吸収早いし、生クリームあるし」

④そして食前と食後30分、食後60分に血糖値を測定してグラフにします。

食材や食前食後によりどれだけ血糖値が変わるか具体的に結果がわかるのがメリットです。

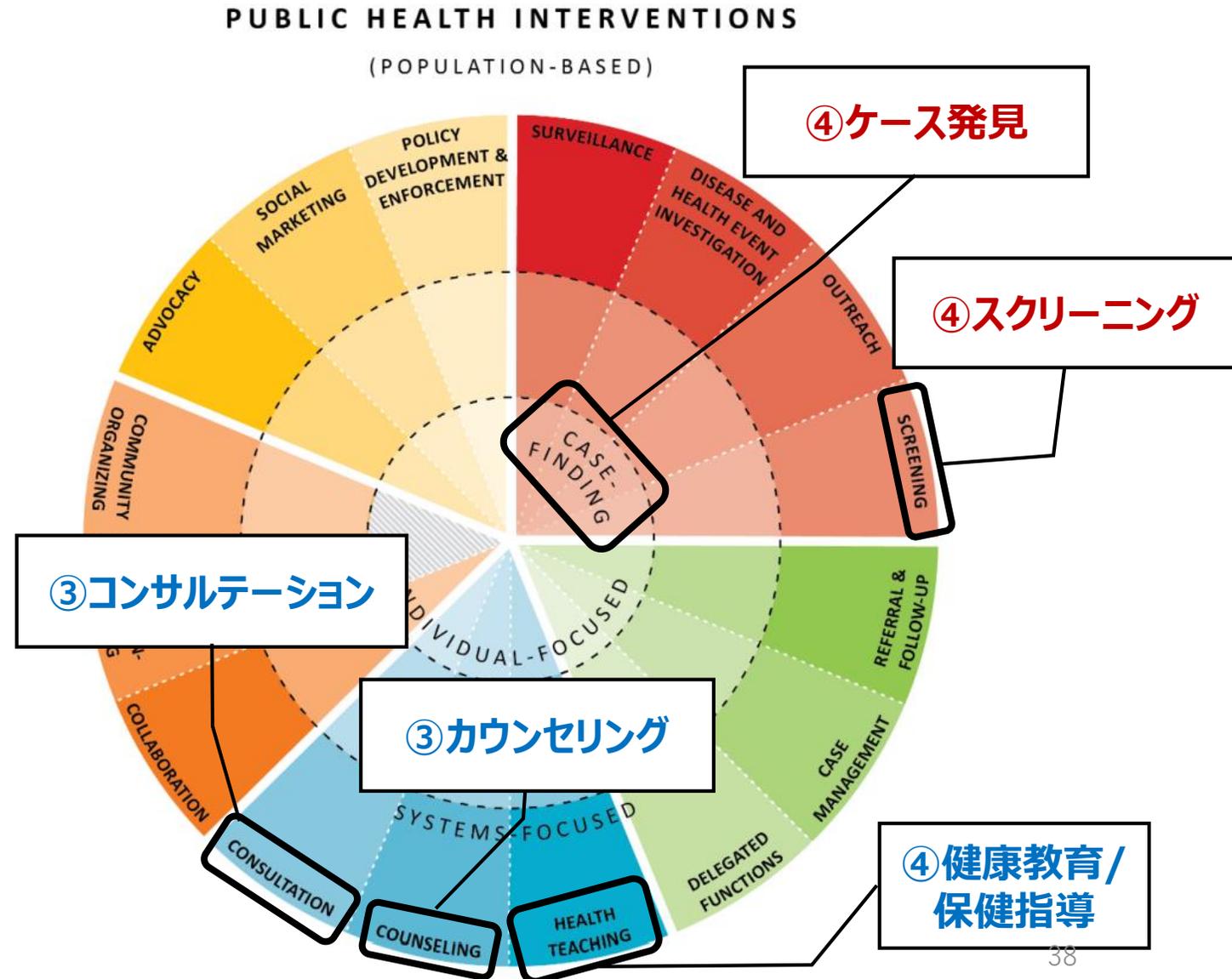
■**ケース発見**：リスク要因を持つ個人や家族を探し出し、社会資源につなぐ

■**スクリーニング**：リスク認識がない or 無症状の集団から（問診票や検査で）リスクや病気のある人を特定

■**健康教育/保健指導**：健康に関する知識・態度・行動・スキルの向上のための教育により情報や経験を共有する

■**カウンセリング**：セルフケアや対処能力の向上を目的として情緒的なレベルでの対人関係を構築する

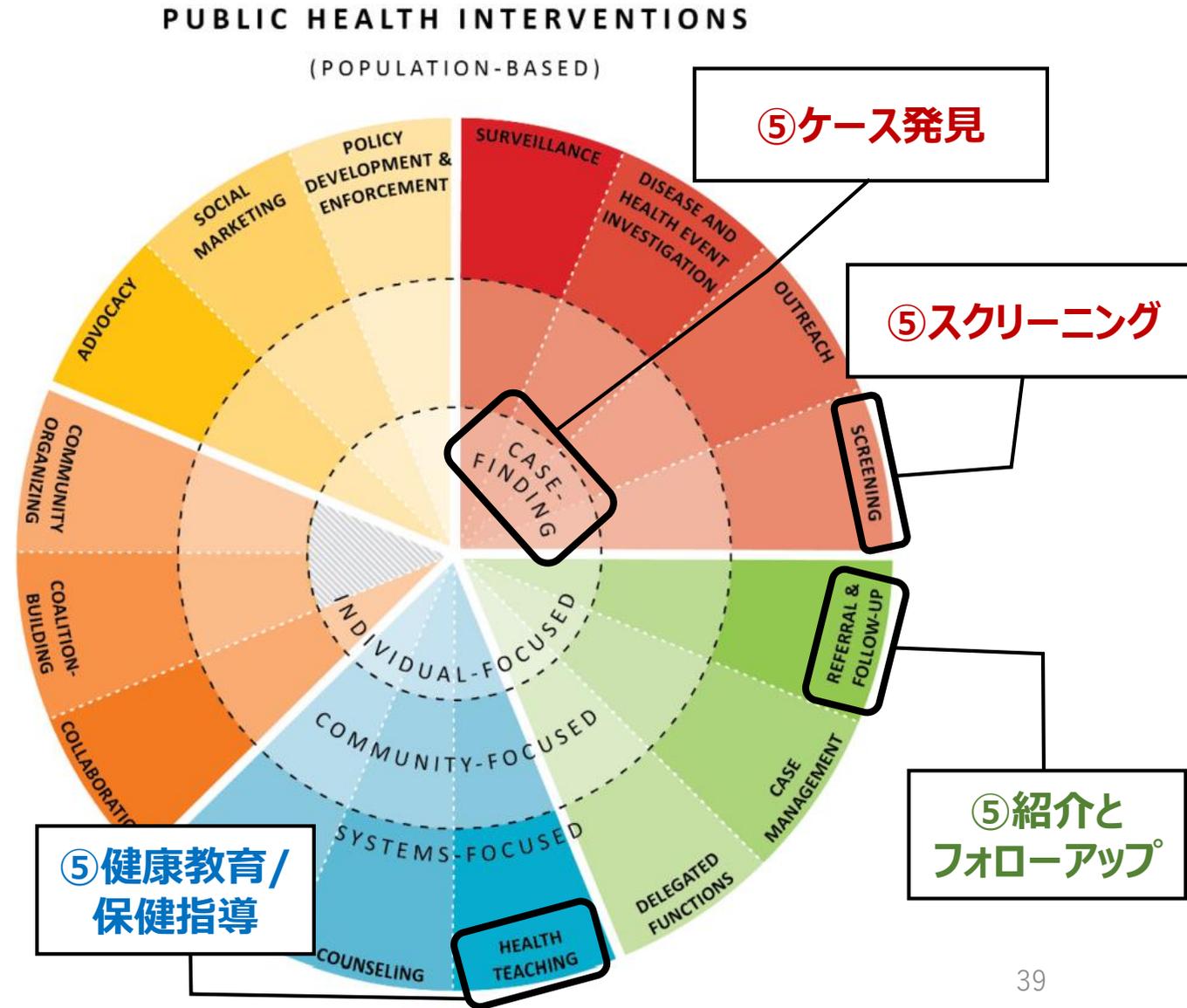
■**コンサルテーション**：情報を求め、双方向の対話的な問題解決を通して、認識した問題や課題に対する最適な解決策を導く



# 場面 2 の振り返り

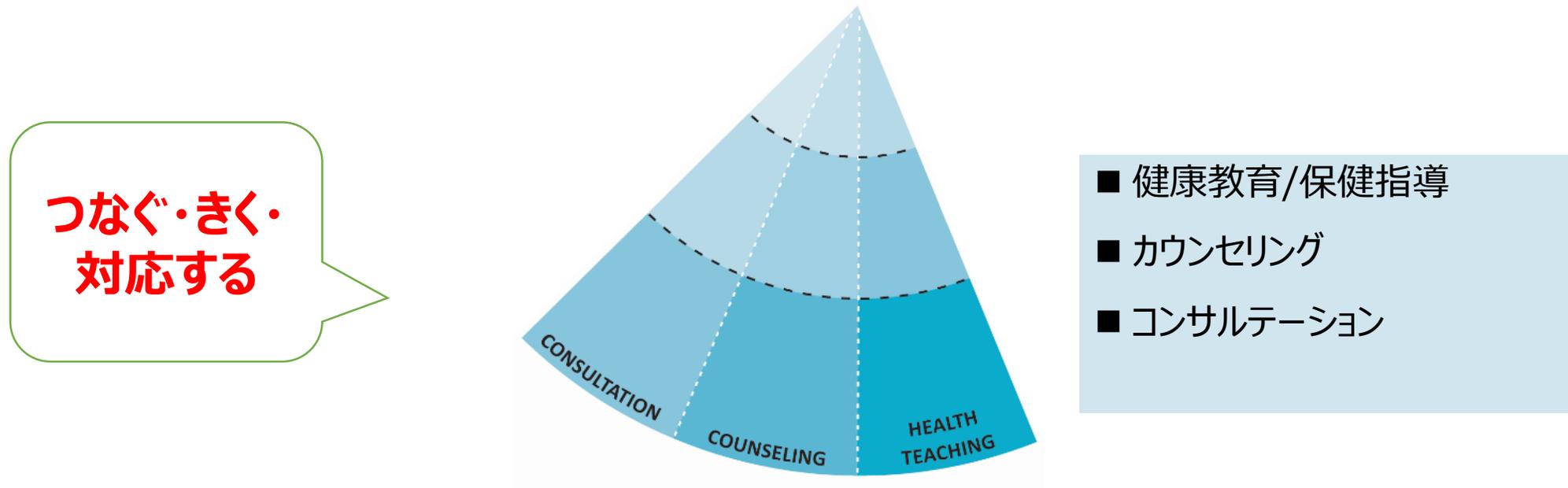
⑤「(中略) とて素晴らしい機会だったので、やっぱり子どもにも主人にも、作ったものを食べてもらうわけですから、また今度は**栄養面でももっと勉強できるような機会があれば来たいな**と思います」

- ケース発見**：リスク要因を持つ個人や家族を探し出し、社会資源につなぐ
- スクリーニング**：リスク認識がない or 無症状の集団から（問診票や検査で）リスクや病気のある人を特定
- 健康教育/保健指導**：健康に関する知識・態度・行動・スキルの向上のための教育により情報や経験を共有する
- 紹介とフォローアップ**：個人や集団を社会資源につなぎ、問題の予防や解決に効果があったかその後確認



## 場面 2 の振り返り

- 場面 2 では、ミネソタホイール青枠の活動が多く見られた。



→対象者に実際にかかわりをもつという活動

# 視聴する動画

場面 1 乳幼児健診に来た母親を対象とする生活習慣病予防の取り組みを始めたきっかけ

場面 2 尿糖が陽性だった母親を対象に行われている「ワンコインランチ事業」

場面 3 保健師以外にも健康づくりに携わる「健康づくり推進員」



# 場面 3 の振り返り

- ①六月住区センターでは、子どもからお年寄りまでが参加するサマーフェスティバルが開かれています。センターの一画で行われている、生活習慣病予防の健康診査と血糖値測定。
- ②ここで保健師とともに活躍しているのは健康づくり推進員です。  
「（中略）健康づくり推進員さんは地域の方のボランティアで、本当に熱心です。」
- ③「（中略）学習については足立区竹ノ塚センターの健康づくりの会議とか講演会ということで、ここではグループワーク・情報交換というのをやっていますので。」  
「あとは年に1回、住区健康づくり連絡会がありますから、そこでも推進員さんの役割というか、どういったことをやっているのかという情報は交換できると思います。」
- ④「こちらの方が主導するよりは、今は安定してきているので、住民さんの力も大きいですので、見守りながら進めていくというような状況です。」

# PHIの適用

すべて  
【ポピュレーションベースの  
公衆衛生介入】

ホイールの内側  
【3つの公衆衛生実践レベル】

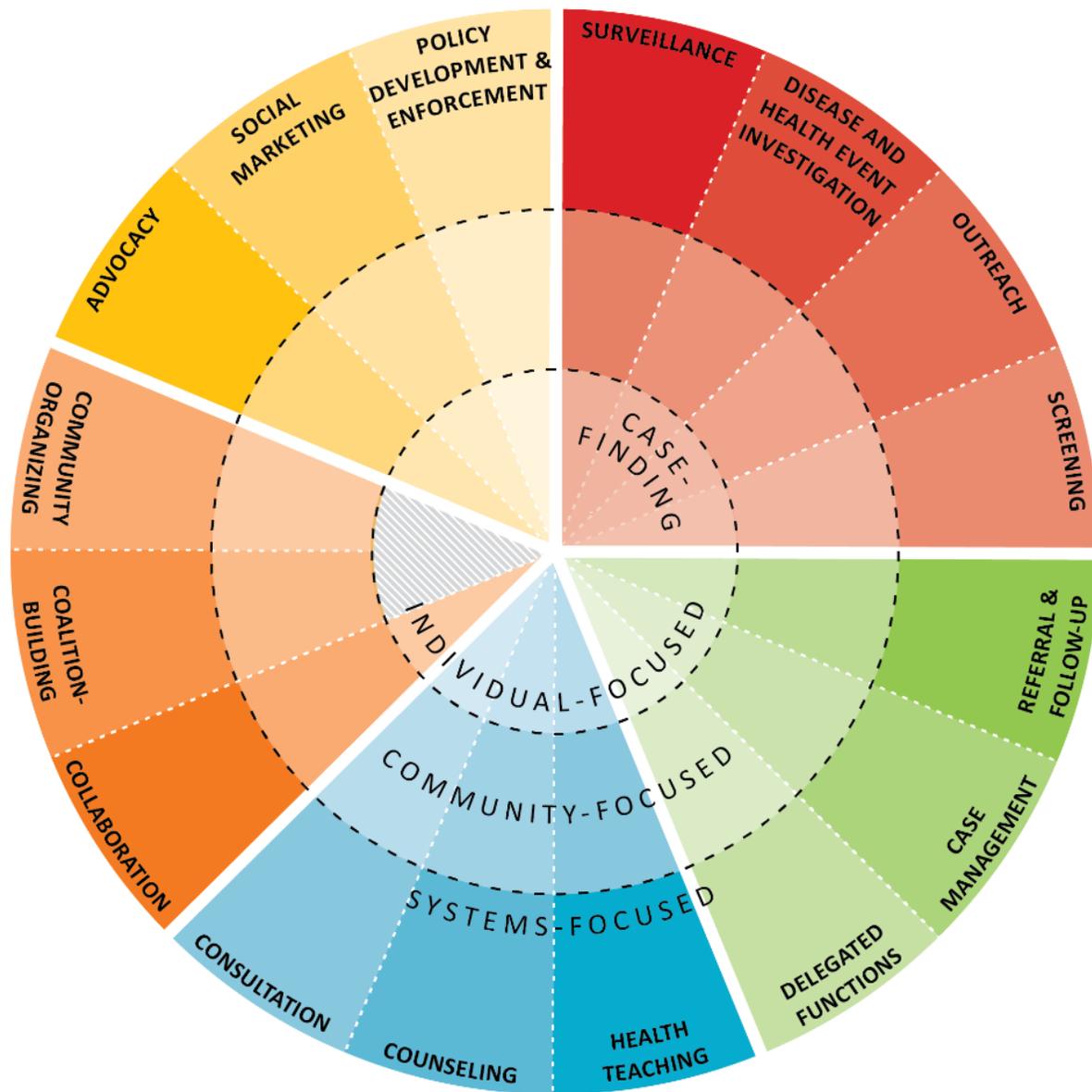
個別フォーカス

地域フォーカス

システムフォーカス

(岡本改変)

## PUBLIC HEALTH INTERVENTIONS (POPULATION-BASED)



## ホイールの外側(5つの分類枠) 【17の公衆衛生介入】

- ・サーベイランス
- ・疾病・健康調査
- ・アウトリーチ
- ・スクリーニング
- ・ケース発見

- ・紹介・フォローアップ
- ・ケースマネジメント
- ・受託業務・委任事務

- ・健康教育
- ・カウンセリング
- ・コンサルテーション

- ・協働
- ・連携構築
- ・地区組織化

- ・アドボカシー
- ・ソーシャルマーケティング
- ・施策化・施行

# 場面3の振り返り

①（中略）センターの一画で行われている、生活習慣病予防の健康診査と血糖値測定。

②ここで保健師とともに活躍しているのは健康づくり推進員です。

「（中略）健康づくり推進員さんは地域の方のボランティアで、本当に熱心です。」

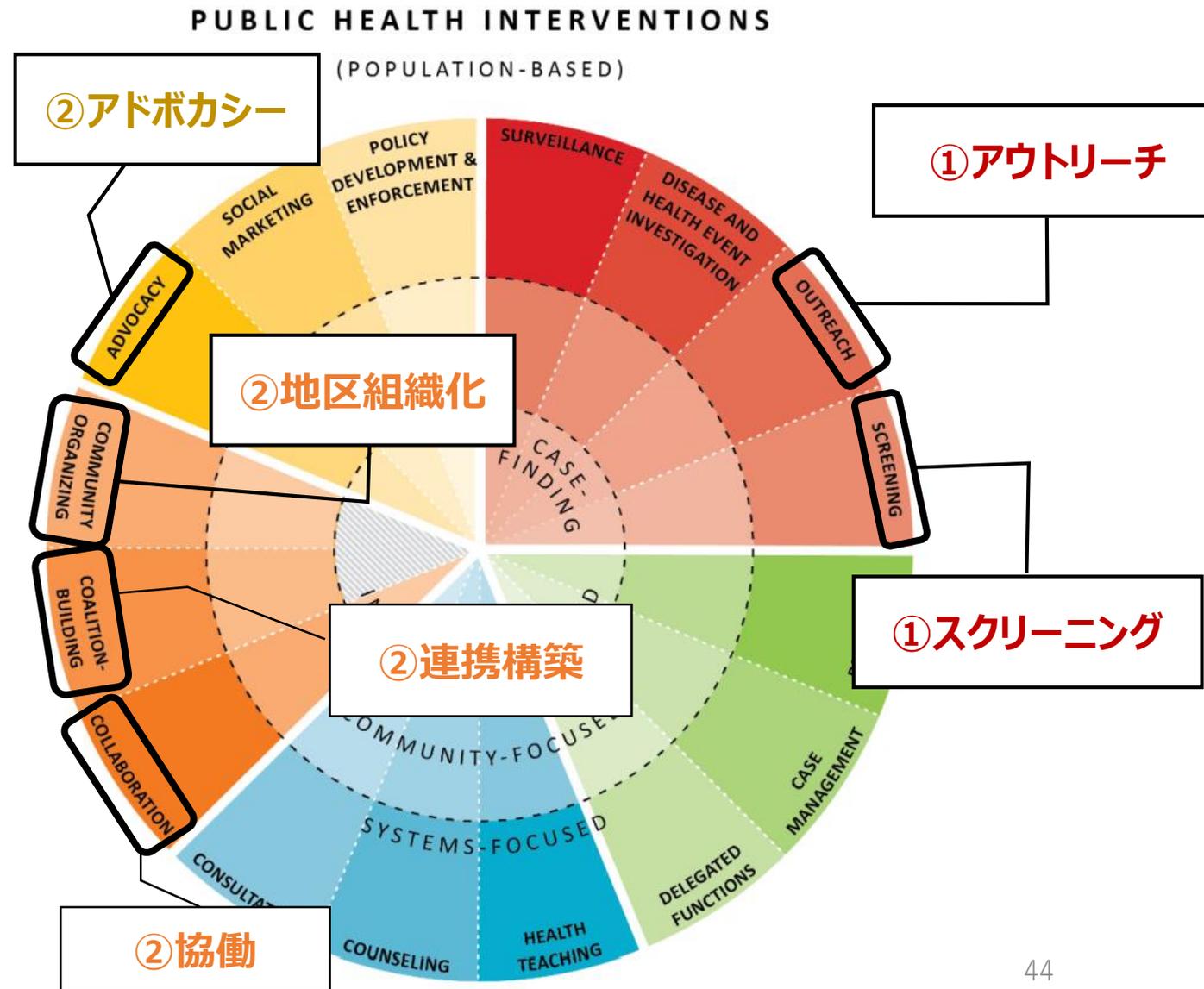
■アウトリーチ：多数のニーズや、ハイリスク集団を特定し、ニーズに対応する地域への出張サービス

■協働(コラボレーション)：相互の利益と共通の目的のために健康を促進・保護する能力を高めること。協働には、情報交換・協調的な活動・資源の共有などが含まれる。

■連携構築：共通の目的のために、組織や構成員間の同盟関係を促進・発展させる。連携構築、問題解決、健康問題への取り組みのために地域のリーダーシップを強化する

■地区組織化(コミュニティ・ガバナンス)：人々が集まって、共通の問題や目標を特定し、資源を動員し、達成したい目的に到達するための戦略を策定し、実行するプロセス

■アドボカシー(権利擁護・代弁)：個人やコミュニティの健康を促進・保護する行為。地域保健の成果を高める政策の支援・策定に向けて、関連の重要人物と協力して、健康や社会的サービスへのアクセスを促進し、主要な意思決定者を積極的に関与させる

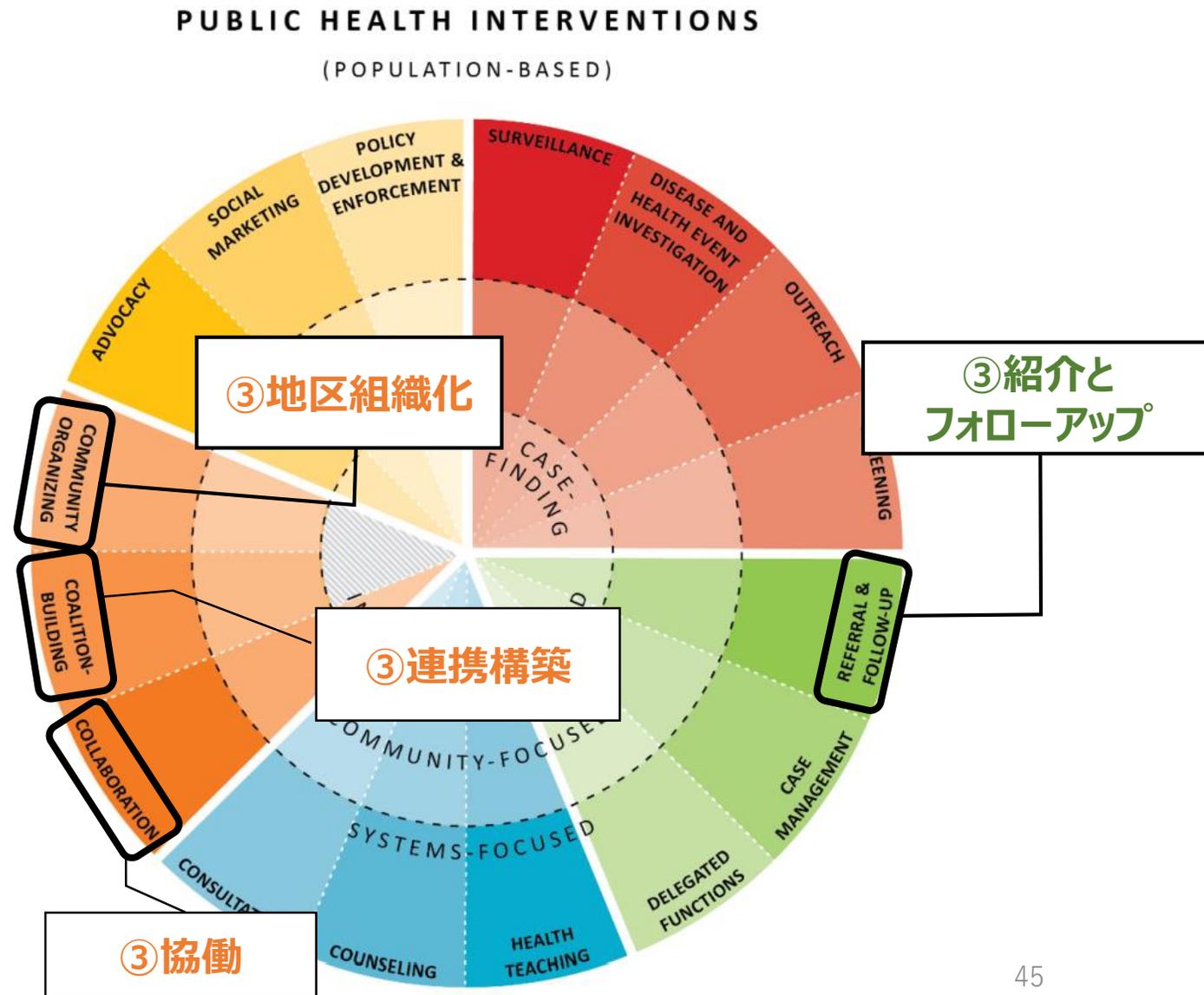


# 場面3の振り返り

③「（中略）学習については足立区竹ノ塚センターの健康づくりの会議とか講演会ということで、そこではグループワーク・情報交換というのをやっていますので。」

「あとは年に1回、住区健康づくり連絡会がありますから、そこでも推進員さんの役割というか、こういったことをやっているのかという情報は交換できると思います。」

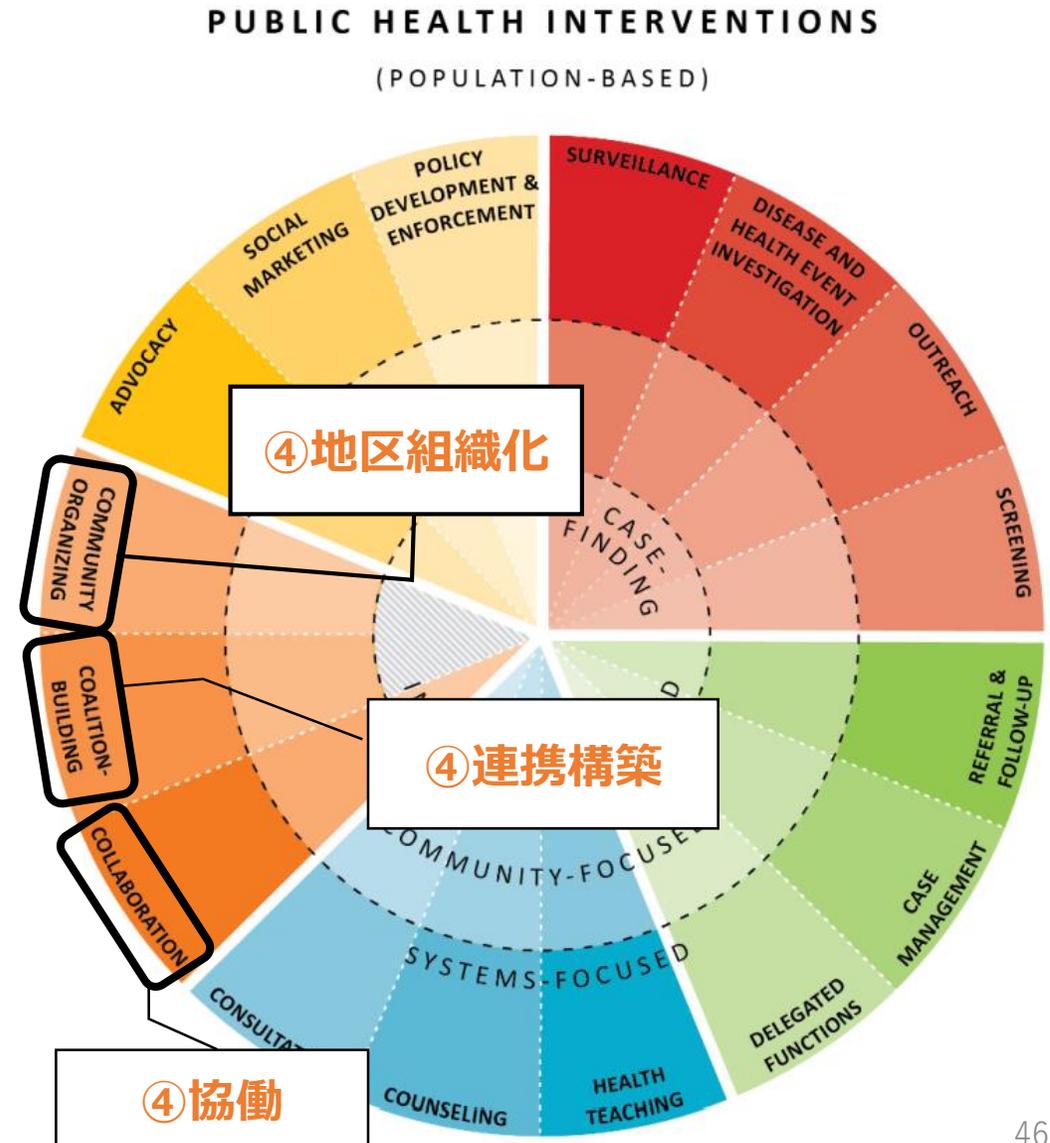
- 紹介とフォローアップ：個人や集団を社会資源につなぎ、問題の予防や解決に効果があったかその後確認
- 協働(コラボレーション)：相互の利益と共通の目的のために健康を促進・保護する能力を高めること。協働には、情報交換・協調的な活動・資源の共有などが含まれる。
- 連携構築：共通の目的のために、組織や構成員間の同盟関係を促進・発展させる。連携構築、問題解決、健康問題への取り組みのために地域のリーダーシップを強化する
- 地区組織化(コミュニティ・ガバナンス)：人々が集まって、共通の問題や目標を特定し、資源を動員し、達成したい目的に到達するための戦略を策定し、実行するプロセス



# 場面 3 の振り返り

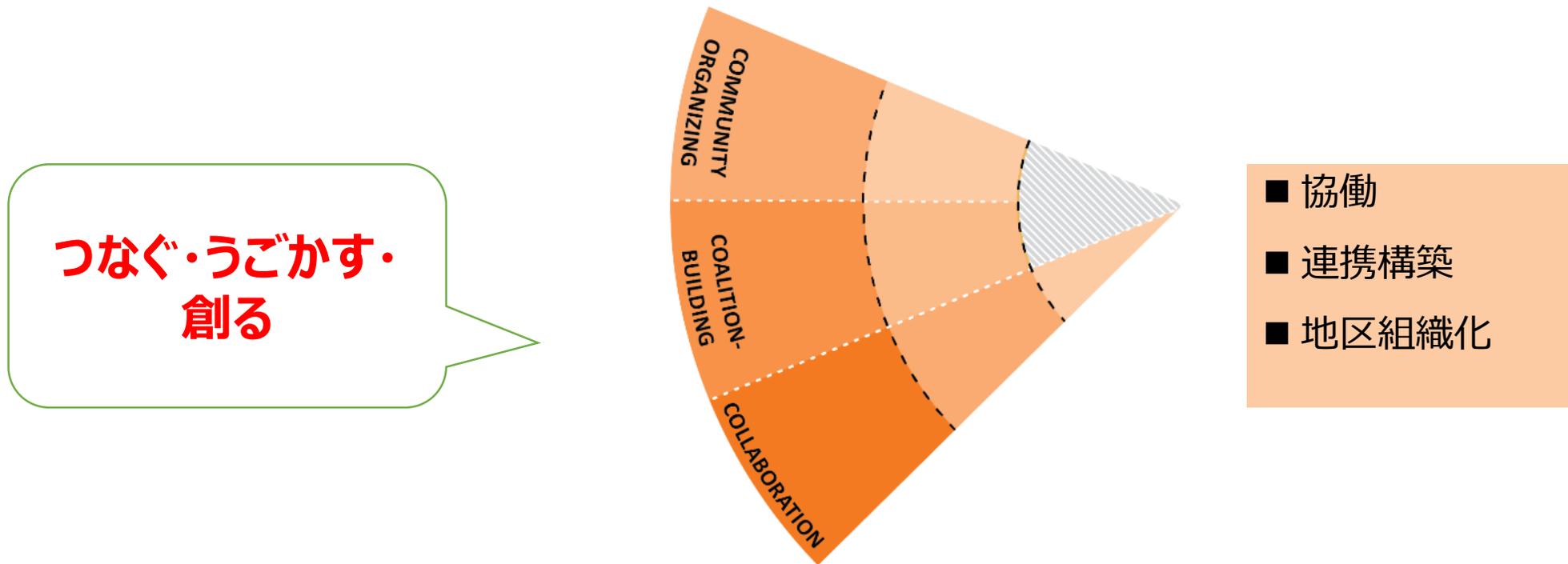
④「こちらの方が主導するよりは、今は安定してきているので、住民さんの力も大きいので、見守りながら進めていくというような状況です。」

- 協働(コラボレーション)：相互の利益と共通の目的のために健康を促進・保護する能力を高めること。協働には、情報交換・協調的な活動・資源の共有などが含まれる。
- 連携構築：共通の目的のために、組織や構成員間の同盟関係を促進・発展させる。連携構築、問題解決、健康問題への取り組みのために地域のリーダーシップを強化する
- 地区組織化(コミュニティガバナンス)：人々が集まって、共通の問題や目標を特定し、資源を動員し、達成したい目的に到達するための戦略を策定し、実行するプロセス



# 場面 3 の振り返り

- 場面 3 では、ミネソタホイールのオレンジ枠の活動が多く見られた。



→ともに地域の健康づくりに携わることで、より住民の力が引き出せるようなかかわりを心掛けていた

# ディスカッションテーマ

- 視聴した動画で出てきたさまざまな保健活動を、ミネソタホイールの17の活動で意味づけてみて、どう思ったか？
- 保健師がミネソタホイールを使う意義とは？

